

はじめに

京都大学防災研究所は、平成8年、設置目的を「災害の学理の研究および防災に関する総合的研究」とあらたに設定しなおすとともに、研究体制を現行の大部門制に再編し、さらに全国共同利用の附置研究所への改組を行った。

この改組からすでに8年が経過した。この間、災害にかかわる自然現象そのものにはおそらく大きな変化はないものの、災害を受ける人間社会には大きな変化が進んでいる。少子高齢化、過密・過疎化、都市化、情報化など社会構造の変化を示すいくつかのキーワードを思い浮かべることができる。とくに阪神・淡路大震災以後、災害・防災に関する人々の意識は様変わりしているといえよう。さらに、近年世の関心を集めていることとして、東南海・南海地震の切迫、雲仙岳、有珠山、三宅島などの火山噴火の発生、世界各地で発生する大規模水害や都市水害、豪雨の頻繁な発生と土砂災害、それらのもとにあるらしい地球規模での大気海洋系環境変化などが挙げられ、これらはいずれも防災研究所の中心的課題というべきである。

今回の外部評価は、外部の研究者に専門家としての立場から、前回（平成10年）の外部評価の指摘事項とその後の改善などに対する自己評価について意見・評価をいただくとともに、前述したことを背景として、その存在意義をより向上させ国際的な研究・連携拠点機能をもっと高めるには防災研究所はどうあるべきか、法人化された国立大学附置の共同利用研究所として今後どのような方向へ進まなければならないか、さらに具体的には中期目標・中期計画を達成するにはどうすればよいかなどに関して、意見・勧告・示唆していただくことを目的とした。

結果には面映いような評価もあるが、含蓄ある示唆や襟を正すべき厳しい見方、および防災研究所の今後の姿を真剣に考えた貴重な意見を多くいただいた。防災研究所としてこれらを真摯に受け止め、今後の運営機構や研究体制の編成ならびに具体的な研究に活かしてゆかなければならないと考えている。

最後に、お忙しいなか膨大な資料を読み解き広い角度から建設的な評価を行っていただいた外部評価委員の先生方に深甚の謝意を表しますとともに、諸資料の準備とその英文化ならびに総括などに多大の労力と時間をかけて下さいました岡田憲夫自己点検・評価委員会委員長をはじめとする委員の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成16年5月

京都大学防災研究所長 井上 和也